

## 「いじめ白書」で情報の「顕在化」を

毎年のように、全国からの「いじめ」に関する報道を知る機会があります。これらの報道を知るときに、私たちの市、岐阜市でも「同じような実態はないか」と、教育に直接かかわる方々だけでなく、地域社会が関心を持ち、原因、「いじめの芽」を見つけ出す、そのような環境が作られることが求められていると考えます。

11月6日、岐阜市内のある駐車場で、3人の中学生が、1人の中学生を取り囲んでいました。囲まれた1人は土下座をさせられていた、とのことでした。

駐車場と隣接する住宅に御住まいの女性が、異常な雰囲気を感じて110番をした事件があります。後の調査の結果、岐阜市立中学校の生徒と判明しました。土下座だけでなく、歩道橋上での大変危険な行為もあったとのことでした。被害者は警察へ被害届けを提出されているとのことでした。

この事件について、学校指導課に問い合わせたところ、当初、来て頂いた方2人は、事件そのものについて情報をお持ちで無かったようです。

事件は6日です。24日に、無所属クラブと市長との議会前の懇談会がありました。席上、お聞きしましたところ、警察に被害届けが出されている事件ですが、教育長には情報は上がっていませんでした。

教育現場の情報の共有化と顕在化へのスピード。その遅さに懸念を持ちます。当該の中学校の校長から、事件当日6日に教育委員会へ報告電話も入っていないとの事です。

自分の学校の事件は、教育委員会や、外の学校へ知られたくない、話したくないとの意識が強くないか。懸念が深まるわけです。

同時に、他都市、他校などで顕在化したことを、岐阜市、自分の学校、地域で同じ現象、事件は無いのか常に点検される気風はあるでしょうか。と、の思いを強くしました。

その気風があれば、共有化、顕在化へのちゅうちょ（報告が遅くなる）は無くなるのでは。人命に関わる事件になる前に、対策を強化できるのではと思います。

12月2日付けで平成27年度「岐阜市の学校教育」公表会のご案内を頂きました。英語教育、タブレットの活用、キャリア教育などなど、熱心で盛りだくさんの内容です。取り組まれるこれらの内容も、前提として、学校で学ぶ、基本的な「こどもの命を大切にする」教育環境を整える取り組みが存在しなければなりません。

(裏面へつづく)

連絡先 市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

(表面から)

各種事件をはじめとする情報の共有化とそのスピードを速めること、同時に「押し隠す」との誤解をまねかないように、顕在化に努めることが大切と考えます。

個人情報への配慮をしつつ、年間事件「いじめ白書」の定期公表を行い、教員をはじめ教育に関わる方々の力を、協力を頂ける機会とする。もちろん、改善策、改善例も同時公表するわけです。

その様な取り組みを、強化されてはどうかと考えます。

名古屋市の市立中学1年生男子生徒(12歳)が11月1日に「いじめを受けた」と遺書に書いて自殺してから1ヶ月と成るのを受けて、遺族が30日に「毎日のようにあの日あったことを思い出しています。なぜ、どうしてと何度もかんがえました」と苦しい心情を打ち明けられるコメントを公表されています。

遺族は「死んだ理由は分かったが、息子を追い詰めた『いじめ』については何も分かりません。」とも言われています。